

2020年5月18日(月)

生井利幸事務所所管
英語道弟子課程・美意識構築稽古場

英語道弟子課程・美意識構築稽古場が賦与する「“超越的”美意識構築の道」

生井利幸

序

このたび、本文書教材を介して、弟子の美意識改善・向上・発展を実現することを主眼として、「弟子の心得」、「弟子の美意識構築法」、「“超越的”美意識の基礎」等に関する講義を賦与する。

講義 1

美意識構築稽古場に装飾済みの数々の絵画・像・その他の装飾物等、さらには、それらが位置する場所、及び、装飾法に於いて、それらすべてに「生井利幸の命」が内在している。

講義 2

英語道弟子課程・美意識構築稽古場の基礎的理念は、以下の如き理念である。

・基礎的理念

"Cleanliness is next to godliness."

(清潔は、敬神に次ぐ美徳である。)

講義 3

銀座書齋入居ビルの清掃活動に「美」(beauty)を見出していない弟子には、美意識構築稽古場に於ける『『ミリ単位』の設置法・装飾法』について、それを必要十分に認識・理解する

ことは不可能である。

講義 4

生井利幸が正式神聖賦与する銀座書齋入居ビルの清掃活動に「美」(beauty)を見出している弟子は、美意識構築稽古場に於ける『『ミリ単位』の設置法・装飾法』に関する諸概念、価値基準、調整・微調整基準等の範疇・枠組みに於いて、前述の『『ミリ単位』の相違』とは、実のところ「巨大なる相違」であるという様相・有様に関して、頗る“具体的に”捉えることが可能となる。

講義 5

生井利幸の弟子は、美意識構築稽古場に於いて、「生井利幸の『超越的繊細性・詳細性』(the very nature and standard of “aesthetical susceptibility” transcendently subtilized)」について、“超越的美学”として“系統的に”引き継ぐ「特権」(privilege)を賦与されている。

講義 6

一個人による「美意識」(a sense of beauty)の表現行為には、本来、「一個人としての人間が持つ、『本人の“真実”の様相・有様』(the state of truth a human being naturally possesses as an individual separated from others)」が露見する。

講義 7

(一般的学術ではなく)“超越的”学術としての「美学」(aesthetics)には、「人間の『命』の「尊厳」(dignity)を維持することに加え、さらに、その(1)「尊厳」を、(2)『美しい尊厳』(beautiful dignity)として改善・向上・発展させるという如き、崇高なる役割・使命がそこにある。

“超越的”学術としての「美学のミッション」は、以下の如き「(1) から (2) への改善・向上・発展」を具現する。

・美学のミッション

(1)「手を加えていない、自然のままの尊厳」 ⇒ (2)「削ぎ落とされ、美意識によって磨き抜かれた『美しい尊厳』(dignity “aesthetically” beautified)」

講義 8

生井利幸の弟子は、「尊厳」の“尊厳性”について、そのすべてを学び、理性的咀嚼を経験し、そのすべてを引き継ぐ特権が賦与されている。